

201421011B

厚生労働科学研究費補助金

エイズ対策研究事業

平成 24 年度～ 26 年度 総合研究報告書

複合予防戦略による多様な若者を 対象とした予防啓発手法の 開発・普及に関する社会疫学的研究

平成 27 年 3 月

(2015)

主任研究者 木原 雅子

京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻社会疫学分野

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業

複合予防戦略による多様な若者を対象とした
予防啓発手法の開発・普及に関する社会疫学的研究

平成24年度～26年度総合研究報告書

平成27年（2015年） 3月

主任研究者 木原 雅子

京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻社会疫学分野

2015年3月

氏名	所属	職名
Web-based intervention 予防介入研究グループ 研究代表者 木原 雅子	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	准教授
研究分担者 鬼塚 哲郎	京都産業大学文化学部	教授
研究班員 S. Pilar Sugimoto	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	助教
Teeranee Techsrivichien	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	研究員
Patou M. Musumari	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	研究員
木原 彩	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	研究員
Sakol Sopitarchasak	京都大学国連合同エイズ計画共同センター	研究員
Bhekumusa W. Lukhele	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
Christina EL-Saaidi	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
本多 由紀子	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
立山 由紀子	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
Irene Nabanoba	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
Mizerero U. S-A	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
M. Sediq Hazratzai	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
School-based intervention 予防介入研究グループ		
木原 雅子	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	准教授
Pilar Sugimoto	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	助教
Teeranee Techsrivichien	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	研究員
Patou M. Musumari	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	研究員
木原 彩	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	研究員
Sakol Sopitarchasak	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
Bhekumusa W. Lukhele	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
Christina EL-Saaidi	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
本多 由紀子	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
立山 由紀子	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
Irene Nabanoba	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
大林由香里	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
Wang Chiawen	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
Mizerero U. S-A	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
M. Sediq Hazratzai	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	
木原 正博	京都大学大学院医学研究科社会疫学分野	教授

目 次

I. 総合研究報告概要（2012 年度～2014 年度）

複合予防戦略による多様な若者を対象とした予防啓発手法の開発・普及に関する社会疫学的研究

.....木原雅子・他1

II. 各年度別研究報告

■2012 年度（平成24 年度）研究報告（一部抜粋）

1. サイバー戦略を用いた予防介入研究木原雅子・鬼塚哲郎・他 15
・性的多様性に関する意識調査（インターネット調査）
2. 性的多様性についての教育支援に関する文献調査研究杉本ピラール他111

■2013 年度（平成25 年度）研究報告（一部抜粋）

1. 性的多様性についての生徒向けサイトの開発に関する研究木原雅子他129
2. 若者の性に関する知識・意識・行動に関する研究木原雅子他159
3. 他の先進国の若者の性行動の実態についての文献調査：国際比較研究パトウー・ムスマリ他251

■2014 年度（平成26 年度）研究報告（一部抜粋）

1. 開発した予防 web サイトの効果評価に関する研究（ランダム化比較試験）木原雅子・他313

■2012～2014 年度の研究成果の刊行物・別冊（欧文原著のみ抜粋）

研究成果の刊行物パトウー・ムスマリ他407

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）
平成24-26年度総合研究報告書

複合予防戦略による多様な若者を対象とした予防啓発手法の開発・普及に関する社会疫学的研究

主任研究者：木原 雅子（京都大学大学院医学研究科 准教授）

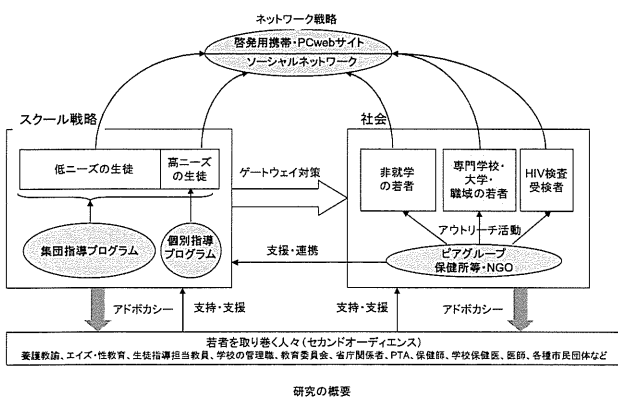
分担研究者：鬼塚 哲郎（京都産業大学文化学部 教授）、

特別研究協力者：杉本ピラール（京都大学大学院医学研究科 助教）

1.研究目的

本研究では、社会疫学的手法（注：質的・量的手法の併用、ソーシャルマーケティング、行動理論、教育理論、社会実験法等）を方法論的基礎とし、複合予防戦略に基づく、包括的 HIV 予防啓発手法を開発・評価する。急速に拡大する IT ネットワークを場とする予防戦略（サイバー戦略）と学校を場とする予防戦略（スクール戦略）とを車の両輪として、多様な若者を対象とした全国規模で持続性のある予防モデルを確立することを目的とする。

具体的には、①サイバー戦略：予防支援ニーズが高いにもかかわらず、アプローチが困難な多様性のある若者（セクシャルマイノリティー若者、性行動の活発な非就学・就労の若者）に対して、効果的経済的な予防サイトの開発普及を行うこと、②スクール戦略：主任研究者がこれまでに構築した学校（中学校、高等学校）における予防教育の集団指導及び個別指導のネットワーク（養護教育、保健体育教諭向けの文科省、県教委等の公的研修会等）を普及の土台とし、上記①で開発したサイトを活用し、セクシャルマイノリティー関連情報も含めた啓発/支援方法とその有効な普及方法の開発を行うことを目的とする（下図参照）。



生・高校生のセクシャルマイノリティー生徒向けサイトのプロトタイプを開発し、さらにそれを改善し、改善したサイトの効果評価を実施した。

【2012 年度】

初年度は、中学生・高校生のセクシャルマイノリティー生徒向けサイト開発の形成調査として以下の研究を実施した。

●性的多様性についての意識調査：【方法】某社に登録 web モニター1,119,539 人のうち包含基準（中学生を除く 15 歳～59 歳男女）を満たす 10,520 人を対象に性的多様性に関する意識知識調査（ネット調査）を実施した。質問は 30 項目で、①ネット上の知人との実際の交際の有無等、②各種性意識（中高生の性行為、婚外交渉、同性間性行為、売買春等）、③同性愛との告白に対する態度、④同性愛についての情報源・入手時期、⑤同性愛についての知識、⑥セクシャルマイノリティーに対する周囲の嫌がらせ経験、⑦同性愛の知人の有無、⑧同性愛についての学校教育、支援対策の必要性、⑨性的指向、⑩同性愛に対する意見[自由記載]であった。【結果】15 歳～59 歳男女合計 2,150 人が回答うち不完全回答を除く 2060 人を解析対象とした。男性同性愛に対する容認態度は、男性では 10-20 代で 35-39%、以後 30-50 代では年代上昇とともに減少傾向（26%、20%、19%）を示した。女性では、10 代 65%で男性の約 2 倍、20-50 代（57%、52%、34%、39%）とどの年代でも高い容認意識を示していた。1999 年に主任研究者が実施した全国の大学生に対する同様の調査では、男性で 34%。女性では 52%の容認率であったことから、若年男性の意識は 15 年前と変化が見られないが、若年女性の容認意識が大きく上昇した可能性が示唆された。次に、学校でのセクシャルマイノリティーに対する頻回の嫌がらせは、10 代男性 29%、女性 16%であり、米国の大規模若者調査結果の嫌がらせ 61%よりもかなり低値であった。また、知人の中での同性愛者の有無については、日本では、

1. サイバー戦略を用いた予防介入研究

(web-based intervention)

2012 年度から 2014 年度の 3 年間をかけて、中学

男性では8-14%、女性では7-24%であったが、ヨーロッパ27カ国の調査では、平均41%が同性愛の知人がいることから、欧米と日本では同性愛に対する学校や社会の意識態度が異なっているためその地域に適した啓発手法の開発が必要である可能性が示唆された。

●海外および国内の既存のセクシュアルマイノリティー向けサイトのレビュー調査:国内外のセクシュアルマイノリティーユース向けサイトのレビュー調査:先進国(豪米)および日本のセクシュアルマイノリティー向けサイトの分析から、アクセスできた既存サイトは、ほとんどが思春期若者のみを対象としているわけではなく、わずかに存在したセクシュアルマイノリティー若者向け(特に中学生・高校生の生徒対象)サイトでは、セクシャリティーに関する基礎情報の提供が主でメンタルヘルスは扱っているが、セクシャルヘルスを扱っているサイトは数が限られており、日本では存在しないことが明らかとなった。

【2013年度-2014年度】

●セクシュアルマイノリティー生徒向けサイトの開発改善:2年度までに、日本を含む先進国のセクシュアルマイノリティー向けサイトの帰納的内容分析及びネットサーベイの結果を基にピア(セクシュアルマイノリティー当事者、高校生当事者)と協働で、中学生・高校生が安心してアクセスできるようなWebサイトの開発を行った。初年度調査から、日本の既存サイトは、①ほとんどが思春期若者のみを対象としているわけではないこと、②現在の文部科学省の学習指導要領にはセクシュアルマイノリティーに関しての集団指導が明記されていないため性教育の集団指導にセクシャリティー情報を含めることが難しいという現状に鑑み、自身のセクシャリティーに揺らぐ年代である思春期の生徒も入りやすく、かつセクシュアルマイノリティーに対する学校全体の受容的雰囲気(school climate)を高めるために、セクシャリティーに関わらず多くの中学生や高校生の生徒が抵抗感なく自然な形でアクセスしやすいサイトを開発した。そのため、多くの生徒がアクセスしやすいように、セクシャルヘルスだけに限定せず、いじめや自傷行為、自殺を含むメンタルヘルスの情報も含めた。さらにセクシャリティーに関しては内容が堅苦しくならないように海外のユーモアのあるCMも動画で掲載するなど様々な工夫をした。主要コンテンツは、①このウェブは何?、②セクシャルヘルスについて、③セクシャリティーについて、④メンタルヘルスについて、⑤居心地のいい空間を作ろう、⑥面白い情報(海外の動画等)、⑦ちょっと退屈だけど科学的デ

ータ、⑧よくある質問、⑨その他(助けてほしいときは!、我々の活動、お問い合わせ先)であり、上記内容を日本語、英語両方で掲載した。さらに、KAP調査(ネットサーベイ:某社の登録webモニター18~19歳男女1,030人)を実施し、当研究班で開発したサイトについて閲覧後の感想を自由記載で記入してもらった。帰納的内容分析の結果、肯定的意見は626人(61%)、否定的意見は190人(18%)で、全般的に肯定的であった。肯定的意見としては、(1)見やすい・分かりやすい、(2)勉強になった・役に立った・ためになった、(3)良いと思う、(4)デザインがいい、(5)もっと知らせるべき、(6)興味深い・必要性を感じた、否定的意見としては、(1)サイト構成上の不便さ・改善の要望、(2)サイトの見た目への批判、(3)興味が持てない・見たくない、(4)ニーズがない・見る人がいるか疑問、(5)何のサイトかわからない、(6)難しい・わかりづらいであったため、最終年度は特に否定的意見を参考にサイト改善を実施した。

●開発したサイトの効果評価(ランダム化比較試験):【方法】開発したサイトを効果評価する目的で、ランダム化比較試験を実施した。某社の登録webモニターのうち包含基準(既婚者を除く18~24歳男女)を満たす37,063人(男性18,700人、女性18,363人)を対象に性に関する調査(ネットサーベイ)を依頼し、2,396人から調査参加の同意を得た。参加同意者を介入群(サイト閲覧群)と非介入群(調査終了後、サイトを紹介delayed control)とにランダムに割り付け、介入の効果(サイト閲覧)をアンケート(ネット調査)で評価した。調査項目は、介入群30項目、非介入群28項目で、調査内容は、性感染症やHIVに関する知識(9問)、性感染症に対するリスク認知、HIVに対するリスク認知、性経験の有無、性的指向、性的多様性に対する知識・誤解(5問)、性的多様性への意識・態度(7問)、性的多様性に関する情報提供、教育、支援の必要性(3問)、サイトに対する感想2問(介入群のみ)であった。【結果】介入群774名(男性387名、女性387名)、非介入群774名(男性387名、女性387名)、合計1,548名の結果を比較した。性感染症、HIVに関する知識は、介入群と非介入群の正解率の差は、全項目で介入群の方が非介入群よりも高値で、男性では15.5%~28.1%、女性では10.9%~25.6%高かった(統計学的に有意)。STI感染へのリスク認知率は、介入群と非介入群を比較すると、男性では5.2%、女性では6.2%高値を示し、HIV感染へのリスク認知は介入群の方が男性で14.4%、女性では7.4%のリスク認知の増加が認められた。一方、性的多様性に関する知

識の質問では、介入群と非介入群の正解率の差は、性感染症や HIV に関する質問ほどの大きな差はないが、全項目で介入群の方が非介入群よりも高値で、男性では 7.8%~12.4%と統計的に有意に高く、女性では、2.9%~8.6%高値であった。また、性的多様性に対する情報提供の必要性、学校における教育の必要性、セクシャルマイノリティーに対する差別偏見減少の教育の必要の質問では、介入群と非介入群では、男性では 5.9%~11.4%統計的に有意に高値を示し、女性では男性ほどではないが、3.1%~9.5%高い値を示した。以上の結果より、サイト閲覧により、性感染症や HIV に関する知識の大幅上昇、リスク認知の上昇、さらに性的多様性に関する知識の上昇、性的多様性に対する教育の必要性に対する肯定的態度の上昇が認められた。

(2) スクール戦略を用いた予防介入研究

(school-based intervention)

【2012 年度】

●各国のセクシャルマイノリティー生徒への対策に関する文献調査:先進国における学校内でのセクシャルマイノリティー生徒に対する支援対策/予防教育に関する文献調査を実施した。【方法】4 データベース (Pub Med, Web of Science, Education resources Information, The Cochrane Library) から、過去 10 年間 (2002-2012 年) について、School, questioning, LGBTQ, sexual minority, gay, lesbian, bisexual, suicide, substance, alcohol, victimization, harassment, bullying, support, prevention を複合キーワードとして文献を検索し、研究デザインの質なども考慮し、最終的に 15 件の文献を分析対象とした。【結果】効果が見られた対策・方法は、①セクシャルマイノリティーに対する学内の生徒・教職員の肯定的態度の育成(positive school climate): 米国、7,376 人中中学生対象、肯定的態度の学校では、LGB 生徒の抑うつ傾向、自殺未遂、薬物・アルコール摂取が有意に減少。②教職員の肯定的態度、③学内の避難部屋 (生徒をくつろがせたり、精神的葛藤を和らげる専門技術を有するスタッフが在る部屋)。④学内のいじめ/ハラスメント指針 (規則) の作成と実施: カナダの全国生徒調査 3,607 人によると、指針のある学校では、ない学校に比べ、性的多様性に関するいじめ嫌がらせが減少。2011 年、米国の全国調査 (13-20 杜氏) 8,584 人対照でも同様の傾向が観察されたが、オーストラリアの調査では、嫌がらせは減少したが、自傷行為、自殺には影響なしであった。⑤Gay-straight

alliance(GSA):GSA は生徒主導の学内クラブでメンバーは性的指向に関係なく誰でも参加可能。カナダ、英国、メキシコ、オランダ、ニュージーランドの高校や中学校で開始。米国 50 州の 8,584 人調査では、GSA の存在が、LGBTQ へのいじめ嫌がらせを減少させ、学校集団帰属意識を増加させた。ウイスコンシン 45 校の中学生 15,965 人調査でも、GSA の存在が不登校、喫煙、飲酒、自殺未遂、Casual sex を減少させた。⑥学内カリキュラムに包含:セクシャルマイノリティー関連の情報提供を授業のカリキュラムに入れる。学内のポスター掲示、書籍の紹介。以上、一部はわが国でも実施可能性のある参考情報を入手した。

【2013 年度】

●青少年 KAP 調査:申請者が開発したエイズ予防教育 (WYSH 教育) を、最新の青少年の現状に即して改善するために、青少年の性に関する KAP 調査を実施した。【方法】前述の某社の登録 web モニター調査 (18~19 歳男性 5,597 人、女性 4,751 人) において、性に関する KAP 調査 (ネット調査) を実施した。質問は 30 項目で、①エイズ関連知識 (9 問)、②性行動 (9 問)、③性意識、④性的指向、⑤HIV/性感染症の感染リスク認知、⑥HIV/性感染症関連情報の必要性、⑦学校のエイズ教育の役立ち感、⑧ HIV/STI 検査の経験の有無、⑨STI 既往、⑩予防サイトの感想 (前述) を尋ねた。【結果】性経験率は、男性では 18 歳 23%、19 歳 26%、女性では 18 歳 29%、19 歳 37%で女性の方が 10%前後高く、初交年齢は男女とも平均 17 歳 (中央値:男性 18 歳、女性 17 歳) で、これまでの相手数の平均値は、男性 3.4 人、女性 2.8 人 (中央値:男性 1 人、女性 1.5 人)、同時期に複数の相手と性関係にあった人は、男性 15%、女性 19%、直近のコンドーム使用率は男性 82%、女性 74%、過去 6 か月のコンドーム毎回使用率は、男性 51%、女性 45%、売買春経験率は、男性 7%、女性 7%、1 か月の平均セックス頻度は、男性 4.2 回、女性 3.7 回 (中央値:男性 2 回、女性 2 回) であった。パートナー数とコンドーム使用率との関係は、男女とも相手の数が多い人ほどコンドーム使用率は低下し、男性では相手が 1 人の場合 81%、5 人以上で 73%、女性では 1 人の場合 82%、5 人以上で 57%で、女性における低下が顕著で、本調査の対象の 18-19 歳では女性の方が性行動が活発でかつ無防備な状況が示された。性的指向は、男性で、同性愛 2%、両性愛 6%、非性愛 asexual 3%、Questioning youth [QY] 2%)、女では同性愛 1%、両性愛 11%、非性愛 5%、QY 6% であった。HIV 検

査経験率は、男性2%、女性1%に留まった。また、性感染症の罹患経験は全体で1.3%で、男性では0.4%、女性では2.1%と男性に比べ女性の方が性感染症の感染の経験がある人の割合が高いことが示された。性感染症の感染の経験と関連する因子を調べた結果、①生涯パートナー数が多いこと、②同時に複数の相手がいること、③セックスの頻度が高いこと、④コンドームを使う頻度が低いこと、⑤金銭の授受を介したセックスの経験があることが統計的に有意の関連が観察された。

さらに、今回の性行動調査の結果を15年前(1999年)に我々が実施した全国国民性行動調査の同年齢の対象群の結果と比較した。その結果、①性経験率、②生涯パートナー数3人以上の割合、③同時に複数の相手のいる人の割合、④金銭の授受を介したセックスに対する容認度のすべての項目において、男性では15年前に比べ、微増であるのに対し、女性ではすべての項目で大幅な上昇が観察され、女性の性行動の活発化が15年までの調査結果との比較からも明らかとなった。

【2013年度-2014年度】

●サイトへのアクセス解析(2013年度)：【方法】学校、保健所で上記URLを紹介するQRコード(注：申請者が開発した、配布場所・配布者を標識でき、かつ転送を追跡できるQRコード)付き紹介カードを配布し、その効果(アクセスの広がりや深さと波及効果)を、アクセス解析(①単位期間内アクセス数、②アクセス当たりの平均滞在時間、③アクセス内容、④アクセスの地理的分布で測定した。【結果】WYSH教育の全国ネットワークを用いて、23都道府県の59高校を選んで3762枚を配布したが、アクセス数は58件(アクセス効率2%)で、平均ページビュー数は6.79、平均滞在時間は4.51分、直帰率は21.0%であった。一方保健所では、19府県49ヶ所に配布した1540部のうち、306枚が設置ボックスからピックアップ、もしくは手渡しされ、34件(11%)のアクセスがあった。平均ページビュー数は7.68、平均滞在時間7.38分、直帰率23.5%であり、学校、保健所ともどちらもニーズの高いユーザーによる訪問であることが示された。しかし高校におけるアクセス効率が、携帯電話の時代の若者に比べ、著しく低下していたことから、次年度はその背景を探る必要性が示された。

●サイトへのアクセス解析(2014年度)：【方法】学校で上記URLを紹介するQRコード付きカードを配布し、その効果(アクセスの広がりや波及効果)を、アクセス解析(①単位期間内アクセス数、②アクセス

当たりの平均滞在時間、③アクセス内容)で測定した。

【結果】WYSH教育の全国ネットワークを用いて、17都府県の36高校に対し2631枚を配布した(2014年12月末中間集計)。アクセス数は合計196件(アクセス効率7.4%)(12月前半86件、後半110件)で、昨年のアクセス効率1%に比べると大幅に増加した。また平均ページビュー数は前半5.44、後半2.65で、平均滞在時間は前半後半ともに2.11分、直帰率は前半67.3%、後半61.6%であった。またリピーター率は前半後半とも25%で、リピーターにおけるページセッション数は13.6、平均滞在時間は5分16秒と非常に興味を持てたサイトであることが示された。ただし、学校での生徒全員へのカード配布であるにもかかわらず、まだアクセス状況は十分とは言いがたい。さらなるアクセス率向上のための誘導方法の開発研究が必要であることが示唆された。

(倫理面での配慮)疫学研究に関する倫理指針に則り、プライバシーの保護、差別・偏見の問題について十分な配慮を行った。

4. 考察

これまで、主任研究者が社会疫学的手法に基づいて開発した、就学生徒を対象とした予防モデル(WYSHモデル)は、科学性と社会文化的適切性の面で高く評価され、厚生労働省、文部科学省の公式の支援を得るに至り、わが国最大の予防教育プロジェクトに発展した。この実績を基に、本研究では、さらに、セクシャルマイノリティー若者(SMY)や性行動が活発で支援ニーズの高い若者等、これまでアクセスが困難であった若者への予防啓発モデルを開発した。サイバー戦略では、上記支援ニーズの高い生徒向けサイトを開発し、そのサイト閲覧の効果をランダム化比較試験(RCT)で評価した。非介入群に比し、介入群では、STI/HIV関連知識で11%~28%の大幅上昇を、またSTI/HIVに対するリスク認知も5-14%の上昇、また性的多様性に対する知識も3-12%の上昇、さらに性的多様性に対する教育の必要性への肯定的態度も3-11%上昇し、サイト閲覧という簡単な行為で、つまり授業時間も指導労力要らない方法で、学校で授業1コマ(45-50分)実施と同等の効果が得られ、これにより青少年に対する経済性、効率性の優れた予防啓発モデルの基礎が構築された。さらに、青少年に対する最大の啓発の場である学校教育を考えた際、この啓発/教育モデルは、学校現場の現状(文部科学省の学習指導要領にはセクシャルマイノリティーについて指導すること可言及していないため性的多様性についての集団指導ができない)に鑑み、学校関係者にも抵抗なく、生徒に情報が提供できる実施可能性の高い予防啓発モ

デルである可能性が示唆された。今後は、閲覧効果でも、STI/HIV 関連知識の増加に比べ、性的多様性の知識増加はそれほど顕著でなかったため、その点を改善する新たな手法の開発研究が必要であり、さらにサイトへの誘導に関しても、学校という場を最大限にいかした誘導方法の開発研究が必要であると考えられる。

5. 自己評価

1)達成度について：サイバー戦略、スクール戦略を用いて、これまでニーズが高いにもかかわらずアプローチが困難であったセクシャルマイノリティー生徒に対する予防サイトの開発、および効果評価を実施し、当初の予定通り、今後の予防啓発モデル構築の基礎研究を行った。2)研究成果の社会的意義について：近年急速に発達している IT を用いた費用対効果の面で応用性の高い予防啓発資材の活用の可能性を示した。加えて、昨今の HIV 教育/啓発に対する時間、予算、人的資源の制約の中、学校という青少

年対策の最も効率的な場で、文部科学省の学習指導要領の範囲内で実施可能で学校関係者が抵抗なく活用できる啓発資材を開発した点で社会的意義が高い。3)今後の展望について：セクシャルマイノリティーの生徒等アクセスが困難な高ニーズ層の若者や性教育に多くの時間を割けないという現状に対し、現在のわが国で実施可能性があり、かつ効果的な青少年予防啓発モデルの開発を継続する予定である。その際 MSM 対策と青少年対策の有機的連携は喫緊の課題であると考えられる。

6. 結論

セクシャルマイノリティー、活発で無防備な性行動をとる若者等に対する費用対効果の面でも実施可能性の高い予防啓発モデルの開発研究という当初の目標を予定通り達成した。

7. 知的所有権の出願・取得状況 : 特になし

研究発表（下線=主任研究者）（平成 24 年度）

[欧文原著]

1. Masika MP, Feldman MD, Teeranee T, Ono-Kihara M, Kihara M. If I have nothing to eat, I get angry and push the pills bottle away from me”: A qualitative study of patient determinants of adherence to antiretroviral therapy in the Democratic Republic of Congo. *AIDS Care* 2012 (in press)
2. Sugimoto SP, Ono-Kihara M, Feldman MD, and Kihara M. Latin American immigrants have limited access to health insurance in Japan: a cross sectional study. *BMC Public Health* 2012 Mar 25;12:2238

[シンポジウム・学会発表等]

1. 木原雅子. 教育講演：HPV・HSV・HIV Update, 日本の若者の性行動の現状とHIV感染 第111回日本皮膚科学会総会、国立京都国際会議場、2012.6.3
2. Techasrivichien T, Musumari MP, Sugimoto SP, El saaidi C, Ruangkanhasetr S, Tassanapitikul T, Chokprajakchad M, Ono-Kihara M, Kihara M. Factors influencing attitudes of Thai female adolescents towards teenage sex: a qualitative study. Oral presentation, 44th Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health (APACPH) Conference, Colombo, Sri Lanka, October 14-17 (2012)
3. Sugimoto SP, Masika MP, Teeranee T, Ono-Kihara M, Kihara M. Neglected in Japan- Low HIV testing rates among Latin American Immigrants in Japan. Oral presentation, 44th Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health (APACPH) Conference, Colombo, Sri Lanka, October 14-17 (2012)
4. Musumari PM, Techasrivichien T, Sugimoto SP, Feldman MD, Ono-Kihara M, Kihara M. You should have faith before putting the pills in your mouth: A qualitative study of patient adherence to antiretroviral therapy in the Democratic Republic of Congo. Oral presentation, 44th Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health (APACPH) Conference, Colombo, Sri Lanka, October 14-17 (2012)

研究発表（下線=主任研究者）（平成 25 年度）

[原著論文・総説]

3. Sugimoto S§, Techasrivichien T, Musumari PM, El-saaidi C, Lukhele BW, Ono-Kihara M, Kihara M. Changing patterns of HIV epidemic in 30 years in East Asia. *Current HIV/AIDS Report* (Invited review, 2014, in press)
4. Ghimire PB, Sugimoto SP, Zamani S, Ono-Kihara M, Kihara M. Vulnerability to HIV infection among female drug users in Kathmandu Valley, Nepal: a cross-sectional study. *BMC*

Public Health (Accepted on Dec.18, 2013)

5. Musumari PM, Piot P, Kayembe P, Wouters E, Kiumbu, Mbikayi S, Ono-Kihara M, Kihara M. Food insecurity is associated with increased risk of non-adherence to antiretroviral therapy among HIV-infected adults in the Democratic Republic of Congo: a cross-sectional study. PLoS ONE 2013 (Accepted on Nov.26, 2013).
6. Musumari PM, Feldman MD, Techasrivichien T, Wouters E, Ono-Kihara M, Kihara M. If I have nothing to eat, I get angry and push the pills bottle away from me": A qualitative study of patient determinants of adherence to antiretroviral therapy in the Democratic Republic of Congo. AIDS Care. 2013 Feb 6. [Epub ahead of print]
7. Ma Q, Pan X, Cai G, Yan J, Xu Y, Ono-Kihara M, Kihara M. Unintended pregnancy and its correlates among female attendees of sexually transmitted disease clinics in Eastern China. Biomed Res Int. 2013;2013:349174. doi: 10.1155/2013/349174. Epub 2013 Jun 13.
8. Ma Q, Pan X, Cai G, Yan J, Xu Y, Ono-Kihara M, Kihara M. The characteristics of heterosexual STD clinic attendees who practice oral sex in Zhejiang Province, China. PLoS One. 2013 Jun 25;8(6):e67092. doi: 10.1371/journal.pone.0067092. Print 2013.
9. Ma Q, Pan X, Cai G, Yan J, Ono-Kihara M, Kihara M. HIV antibody testing and its correlates among heterosexual attendees of sexually transmitted disease clinics in China. BMC Public Health. 2013 Jan 17;13:44. doi: 10.1186/1471-2458-13-44.

[著書等]

1. 木原雅子. WYSH 教育事例集 1、『性教育、いじめ教育、いのちの教育、やる気アップ教育のモデル紹介』～健康教育・道徳教育・キャリア教育・情報教育・人権教育・生徒指導・教育相談の現場で使える事例集～、一般財団法人日本こども財団、京都、2013
2. 木原雅子. ソーシャルマーケティングの研究への導入. ヘルスリサーチの方法論 (井上洋士編集)、放送大学出版会、2013 年
3. 木原雅子、木原正博. 医学的介入の研究デザインと統計：ランダム化／非ランダム化研究から傾向スコア、操作変数法まで。メディカルサイエンスインターナショナル、東京、2013 (原著：Katz MH. Evaluating Clinical and Public Health intervention. Cambridge University Press. 2010)

研究発表 (下線=主任研究者) (平成 26 年度)

[原著等]

<主任研究者>

1. Techasrivichien T, Darawuttimaprakorn N, Punpuing S, Musumari PM, Lukhele BW, El-Saaidi C, Suguimoto SP, Feldman MD, Ono-Kihara M, Kihara M. Changes in Sexual Behavior and Attitudes Across Generations and Gender Among a Population-Based Probability Sample From an Urbanizing Province in Thailand. Arch Sex Behav. 2014. [Epub ahead of print]
2. Suguimoto SP, Techasrivichien T, Musumari PM, El-saaidi C, Lukhele BW, Ono-Kihara M, Kihara M. Changing patterns of HIV epidemic in 30 years in East Asia. Curr HIV/AIDS Rep. 2014;11(2):134-45. doi: 10.1007/s11904-014-0201-4.
3. Musumari PM, Wouters E, Kayembe PK, Kiumbu Nzita M, Mbikayi SM, Suguimoto SP, Techasrivichien T, Lukhele BW, El-Saaidi C, Piot P, Ono-Kihara M, Kihara M. Food insecurity is associated with increased risk of non-adherence to antiretroviral therapy among HIV-infected adults in the Democratic Republic of Congo: a cross-sectional study. PLoS One. 2014 15;9(1):e85327. doi: 10.1371/journal.pone.0085327.

[著書等]

1. 木原雅子、木原正博. 医学的研究のデザイン第4版：研究の質を高める疫学的アプローチ。メディカルサイエンスインターナショナル、東京、2014（原著：Hulley SB 他. Designing Clinical Research. Lippincott Williams & Wilkins Cambridge. 2013）

2. 木原雅子. WYSH 教育事例集2、「性教育、いじめ教育、いのちの教育、やる気アップ教育のモデル紹介」～健康教育・道徳教育・キャリア教育・情報教育・人権教育・生徒指導。教育相談の現場で使える事例集～、一般財団法人日本こども財団、京都、2014

[学会発表（口頭発表）]

1. Musumari PM*, Techasrivichien T*, Suguimoto, El-saaidi C, Leukhele BW, Ono-Kihara M, Kihara M. Need for documented examples to outline the multidisciplinary and interdisciplinary nature of global health 2014. APRU Global Health Program Workshop, September 25-26, Taipei, 2014
2. Lukhele BW, Techasrivichien T, Patou Musumari PM, El-saaidi C, Pilar Suguimoto P, Ono-Kihara M, Kihara M. Multiple Sexual partnerships and Their Correlates Among Facebook Users in Swaziland: An Online Cross-Sectional Study International Academic Exchange Switzerland, Geneva, World Health Organization 15 September 2014
3. Lukhele BW, Techasrivichien T, Musumari PM, El-saaidi C, Suguimoto P, Ono-Kihara M, Kihara M: Gamification of HIV risk behavior change communication: A Randomized Intervention Trial among internet users in Swaziland International Academic Exchange, Geneva, World Health Organization, 16 September 2014

[講演会・研修会・シンポジウム等]（主任研究者のみ）（平成24年度～平成26年度）

平成24年度（2012年4月1日～2013年3月末まで）

- 1) 木原雅子 『平成24年度 茨城県高等学校PTA連合会 総会』 茨城県高等学校PTA連合会 主催、茨城県、平成24年5月25日
- 2) 木原雅子 『“WYSH”小松特別基礎研修会』 国際ソロプチミスト小松 主催、小松、平成24年5月30日
- 3) 木原雅子 『第111回日本皮膚科学会総会「教育講演」』 第111回日本皮膚科学会総会 主催、京都、平成24年6月3日
- 4) 木原雅子 『平成24年度 課題別研修講座「学校における性に関する教育の在り方」』 宮崎県教育研修センター 主催、宮崎、平成24年6月12日
- 5) 木原雅子 『平成24年度 地区別・エイズ・薬物乱用防止教育研修会』 沖縄県教育庁保健体育課 主催（①那覇市②浦添市③宮古市④石垣市）、沖縄県、平成24年06月26日～29日
- 6) 木原雅子 『平成24年度 生徒指導指導者養成研修「性・薬物に関わる非行の予防と対応」』 独立行政法人教員研修センター 主催、つくば、平成24年7月3日
- 7) 木原雅子 『平成24年度 愛媛県性に関する教育研修会』 愛媛県教育委員会 主催、愛媛県、平成24年7月5日
- 8) 木原雅子 『平成24年度 養護教諭研修「学校における性に関する指導の在り方」』 浜松市教育委員会 主催、浜松市、平成24年7月10日
- 9) 木原雅子 『平成24年度 WYSH 保健所プロジェクト研修会』 公益財団法人 日本エイズ予防財団 主催、平成24年7月18日～19日
- 10) 木原雅子 『平成24年度 学校保健研修会「学校における性教育について」』 西三河地方教育事務協議会 主催、平成24年8月1日

- 1 1) 木原雅子 『平成 24 年度 「WYSH 教育」全国研修会 指導者養成コース』 小学校向け (基礎編) 一般財団法人 日本こども財団 主催、平成 24 年 8 月 6 日
- 1 2) 木原雅子 『平成 24 年度 「WYSH 教育」全国研修会 指導者養成コース』 小学校向け (応用編) 一般財団法人 日本こども財団 主催、平成 24 年 8 月 7 日
- 1 3) 木原雅子 『平成 24 年度 全国養護教諭研究大会 「第 6 課題：性に関する指導」』 文部科学省：山形県教育委員会内実行委員会 主催、平成 24 年 8 月 10 日
- 1 4) 木原雅子 『平成 24 年度 「WYSH 教育」全国研修会 指導者養成コース』 中学校向け (基礎編) 一般財団法人 日本こども財団 主催、平成 24 年 8 月 20 日
- 1 5) 木原雅子 『平成 24 年度 「WYSH 教育プログラム」 中学校向け個別指導研修会』 一般財団法人 日本こども財団 主催、平成 24 年 8 月 20 日
- 1 6) 木原雅子 『平成 24 年度 「WYSH 教育」全国研修会 指導者養成コース』 中学校向け (応用編) 一般財団法人 日本こども財団 主催、平成 24 年 8 月 21 日
- 1 7) 木原雅子 『平成 24 年度 「WYSH 教育」全国研修会 指導者養成コース』 高等学校向け (基礎編) 一般財団法人 日本こども財団 主催、平成 24 年 8 月 23 日
- 1 8) 木原雅子 『平成 24 年度 「WYSH 教育プログラム」 高等学校向け個別指導研修会』 一般財団法人 日本こども財団 主催、平成 24 年 8 月 23 日
- 1 9) 木原雅子 『平成 24 年度 「WYSH 教育」全国研修会 指導者養成コース』 高等学校向け (応用編) 一般財団法人 日本こども財団 主催、平成 24 年 8 月 24 日
- 2 0) 木原雅子 『平成 24 年度 高校生心のサポートシステム実践・研究会「性と薬物に関する非行の予防と対策」』 兵庫県教育委員会 主催、平成 24 年 8 月 30 日
- 2 1) 木原雅子 高知大学教育学部附属特別支援学校 WYSH 教育 モデル授業実施、平成 24 年 9 月 2 日～4 日
- 2 2) 木原雅子 『平成 24 年度 「エイズ—社会を映す鏡」』 大学コンソーシアム京都全学共通教育センター 主催、平成 24 年 9 月 14 日
- 2 3) 木原雅子 愛知県豊田市立下山中学校 WYSH 教育フォーカスグループインタビュー、平成 24 年 9 月 23 日～25 日
- 2 4) 木原雅子 愛知県豊田市立下山中学校 WYSH 教育モデル授業、平成 24 年 10 月 15 日～17 日
- 2 5) 木原雅子 『青森県高等学校 PTA 連合会健全育成研修会「イマドキの高校生の実態」』 一般財団法人全国高等学校 PTA 連合会：青森高 P 連 主催、平成 24 年 11 月 1 日
- 2 6) 木原雅子 『平成 24 年度 思春期保健講演会及び関係者向け講座』 北海道帯広保健所・十勝教育局 共催、平成 24 年 11 月 3 日
- 2 7) 木原雅子 『第 62 回全国学校保健研究大会 課題別協議会 第 5 課題「性に関する指導」』 熊本県教育庁内実行委員会 主催、平成 24 年 11 月 9 日
- 2 8) 木原雅子 『平成 24 年度 健康教育指導者養成研修 (健康コース) 東部ブロック』 独立行政法人教員研修センター 主催、平成 24 年 11 月 15 日
- 2 9) 木原雅子 『平成 24 年度 第 1 回鳥取県性教育指導実践研修会』 鳥取県教育委員会 主催、平成 24 年 11 月 21 日
- 3 0) 木原雅子 『平成 24 年度 思春期保健講演会』 富士市役所保健部健康対策課 主催 平成 24 年 12 月 1 日
- 3 1) 木原雅子 『平成 24 年度 山口県公立高等学校 PTA 連合会「研究討議会」』 山口県公立高等学校 PTA 連合会 主催、平成 24 年 12 月 7 日
- 3 2) 木原雅子 『三重県立北星高等学校 PTA 講演会』 三重県立北星高等学校 PTA 主催 平成 24 年 12 月 9 日
- 3 3) 木原雅子 『平成 24 年度 健康教育指導者養成研修 (健康コース) 西部ブロック』 独立

- 行政法人教員研修センター 主催、平成 24 年 12 月 14 日
- 34) 木原雅子 『平成 24 年度 静岡市子どもと家族の精神保健ネットワーク研修会』 静岡市学校保健会・教育委員会 共催、平成 24 年 12 月 15 日
 - 35) 『平成 24 年度 和歌山県「性に関する指導」研修会』 和歌山県教育庁学校教育局健康体育課 主催、平成 24 年 12 月 18 日
 - 36) 『平成 24 年度 浜田市教育研究会養護部会「WYSH 教育研修会」』 島根県浜田市教育研究会養護部会 主催、平成 25 年 1 月 11 日
 - 37) 『第 21 回宮城県性教育指導者研修会』 宮城県教育委員会 主催、平成 25 年 1 月 18 日
 - 38) 『秩父地区保健主事・養護教諭合同研修会及び秩父教育研究会養護教諭研修会』 秩父地区養護教諭部会 主催、平成 25 年 1 月 23 日
 - 39) 『千葉県特別支援学校教育研究会学校保健教育研究会研修会』 千葉県特別支援学校教育研究会同学校保健研究会部会 共催、平成 25 年 2 月 8 日
 - 40) 『平成 24 年度 性に関する協議会』 文部科学省スポーツ・青少年局 主催、平成 25 年 2 月 12 日
 - 41) 『第 57 回西宮市学校保健研究大会』 西宮市教育委員会 主催、平成 25 年 2 月 14 日
 - 42) 『平成 24 年度 大阪市教育委員会研究支援事業「WYSH 教育の実践発表会」』 大阪市立大領中学校 主催、平成 25 年 2 月 22 日
 - 43) 『平成 24 年度 こども財団広島支部「WYSH 教育研修会」』 こども財団広島支部 主催、平成 25 年 2 月 23 日
 - 44) 『平成 24 年度 養護教諭研修会』 愛知県海部地方教育事務協議会 主催、平成 25 年 2 月 27 日
 - 45) 『第 4 回 健康教育部研究会』 兵庫県豊岡市教育研究協議会 主催、平成 25 年 3 月 9 日

平成 25 年度 (2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月末まで)

- 1) 木原雅子 『青森県立大湊高等学校父母と教師の会』 青森県大湊高等学校 PTA 連合会 主催、青森県、平成 25 年 4 月 20 日
- 2) 木原雅子 『福岡県教育庁京築教育事務所「小・中学校新任保健主事研修」』 福岡県教育庁京築教育事務所 主催、福岡県、平成 25 年 6 月 12 日
- 3) 木原雅子 『国際ソロプチミスト小松『母親との WYSH 教育「ワークショップ」』』 国際ソロプチミスト小松 主催、石川県小松市、平成 25 年 6 月 29 日
- 4) 木原雅子 『平成 25 年度生徒指導指導者養成研修(つくば市)』 独立行政法人教員研修センター(文部科学省) 主催、茨城県つくば市、平成 25 年 7 月 4 日
- 5) 木原雅子 『平成 25 年度 神奈川県立高等学校 PTA 連合会研修大会』 神奈川県高等学校 PTA 連合会 主催、神奈川県横浜市、平成 25 年 7 月 7 日
- 6) 木原雅子 『宮崎県教育研修センター「学校における性に関する教育の推進」』 宮崎県教育研修センター 主催、宮崎県宮崎市、平成 25 年 7 月 9 日
- 7) 木原雅子 『京都市立嵯峨野小学校 PTA 右京はぐくみ委員研修会』 京都市 PTA 協議会右京はぐくみ委員会 主催、京都府京都市、平成 25 年 7 月 12 日
- 8) 木原雅子 『「平成 25 年度 全国地方自治体保健所等の青少年エイズ対策推進プログラム」』 公益財団法人 日本エイズ予防財団 主催、京都市、平成 25 年 7 月 16～17 日
- 9) 木原雅子 『愛知県教育委員会「平成 25 年度からだと心の専門講座」』 愛知県教育委員会 主催、名古屋市、平成 25 年 7 月 25 日

- 1 0) 木原雅子 『熊本市教育委員会「平成 25 年度 性に関する指導第 1 次研修会」』 熊本市教育委員会 主催、平成 25 年 7 月 30 日
- 1 1) 木原雅子 『平成 25 年度 「WYSH 教育」全国研修会 指導者養成コース』 小学校向け(基礎編) 一般財団法人 日本こども財団 主催、平成 25 年 8 月 5 日
- 1 2) 木原雅子 『平成 25 年度 「WYSH 教育」全国研修会 指導者養成コース』 小学校向け(応用編) 一般財団法人 日本こども財団 主催、平成 25 年 8 月 6 日
- 1 3) 木原雅子 『平成 25 年度 「WYSH 教育」全国研修会 指導者養成コース』 高等学校向け(基礎編) 一般財団法人 日本こども財団 主催、平成 24 年 8 月 8 日
- 1 4) 木原雅子 『平成 25 年度 「WYSH 教育」全国研修会 指導者養成コース』 高等学校向け(応用編) 一般財団法人 日本こども財団 主催、平成 24 年 8 月 9 日
- 1 5) 木原雅子 『平成 25 年度 「WYSH 教育」全国研修会 指導者養成コース』 中学校向け(基礎編) 一般財団法人 日本こども財団 主催、平成 25 年 8 月 19 日
- 1 6) 木原雅子 『平成 25 年度 「WYSH 教育」全国研修会 指導者養成コース』 中学校向け(応用編) 一般財団法人 日本こども財団 主催、平成 25 年 8 月 20 日
- 1 7) 木原雅子 『第 63 回全国高等学校 P T A 連合会 : 全国大会 (山口大会)』 一般社団法人 全国高等学校 P T A 連合会 主催、山口県、平成 25 年 8 月 22 日
- 1 8) 木原雅子 『「第 32 回 日本思春期学会総会・学術集会」』 日本思春期学会 主催、平成 25 年 9 月 1 日
- 1 9) 木原雅子 『猿払村鬼志別保育所子育て支援センター 保護者・職員研修会』 猿払村鬼志別保育所/教育委員会 主催、北海道、平成 25 年 9 月 7 日
- 2 0) 木原雅子 『京都市教育委員会「小 P 連はぐくみ委員会・中 P 連親学び委員会 合同学習会」』 京都市教育委員会 主催、京都市、平成 25 年 9 月 9 日
- 2 1) 木原雅子 『平成 25 年度 「エイズ—社会を映す鏡」』 大学コンソーシアム京都全学共通教育センター 主催、京都市、平成 25 年 9 月 12 日
- 2 2) 木原雅子 北海道市立札幌大通高等学校 (全日・定時制) WYSH モデル授業 フォーカスグループインタビュー、北海道、平成 25 年 9 月 24 日~26 日
- 2 3) 北海道市立札幌大通高等学校 (全日・定時制) WYSH モデル授業、北海道、平成 25 年 10 月 22 日~24 日
- 2 4) 木原雅子 『愛媛県高等学校教育研究会 研修会』 愛媛県高等学校教育研究会 主催、平成 25 年 11 月 6 日
- 2 5) 木原雅子 『第 63 回全国学校保健研究大会 課題別協議会 第 5 課題「性に関する指導」』 全国学校保健会/秋田県教育庁 主催、平成 25 年 11 月 7 日~8 日
- 2 6) 木原雅子 『鳥取県立日野高等学校 性教育研修会』 鳥取県立日野高等学校 主催、鳥取県、平成 25 年 11 月 12 日
- 2 7) 木原雅子、『鳥取県立鳥取工業高等学校「教職員研修」』 鳥取県立鳥取工業高等学校 主催、鳥取県、平成 25 年 11 月 21 日
- 2 8) 木原雅子 『平成 25 年度 健康教育指導者養成研修 (健康コース) 西部ブロック』 独立行政法人教員研修センター (文部科学省) 主催、福岡県、平成 25 年 11 月 28 日
- 2 9) 木原雅子 『三重県立北星高等学校 P T A 講演会』 三重県立北星高等学校 P T A 主催 三重県、平成 25 年 11 月 30 日
- 3 0) 木原雅子 『兵庫県教育委員会「学校における性に関する指導の在り方」』 兵庫県教育委員会 主催、兵庫県、平成 25 年 12 月 3 日
- 3 1) 木原雅子 『三重県伊勢市学校保健会 : 性教育研修会』 三重県伊勢市学校保健会 主催 三重県伊勢市、平成 25 年 12 月 5 日
- 3 2) 木原雅子 『新潟市教育委員会「性に関する教育・生きる教育」』 新潟市教育委員会 主

催、新潟市、平成 25 年 12 月 6 日

- 33) 木原雅子 『和歌山県教育委員会 平成 25 年度『性に関する指導』研修会』 和歌山県教育庁学校教育局健康体育課 主催、和歌山市、平成 25 年 12 月 11 日～12 日
- 34) 木原雅子 『平成 25 年度 健康教育指導者養成研修（健康コース）東部ブロック』 独立行政法人教員研修センター（文部科学省） 主催、茨城県つくば市、平成 25 年 12 月 20 日
- 35) 木原雅子 『特定非営利活動法人チャイルドライン「もしもしキモチ」『思春期の性について勉強会』』 特定非営利活動法人チャイルドライン 主催、福岡県、平成 25 年 12 月 22 日
- 36) 木原雅子 『平成 25 年度思春期保健関係職員等研修会』 福島県いわき市保健所 主催、福島県、平成 26 年 1 月 9 日
- 37) 木原雅子、『青少年の性感染症予防及び生きる力を育む教育研修会』 石川県南加賀保健福祉センター 主催、石川県小松市、平成 26 年 1 月 14 日
- 38) 木原雅子 『WYSH 教育を子供たちに！「ワークショップ」』 国際ソロプチミスト小松 主催、石川県小松市、平成 26 年 1 月 21 日
- 39) 木原雅子、『WYSH 教育実践発表会』 日本こども財団広島支部 主催、広島県、平成 26 年 1 月 25 日
- 40) 木原雅子、『国際ソロプチミスト大津 「チャリティ講演会」』 国際ソロプチミスト大津 主催、滋賀県大津市、平成 26 年 1 月 29 日
- 41) 木原雅子、『平成 25 年度 大阪市教育委員会研究支援事業「WYSH 教育の実践発表会」』 大阪市立大領中学校 主催、平成 26 年 1 月 31 日
- 42) 木原雅子、『全国高等学校 PTA 連合会 「平成 25 年度 第 2 回全国会長・事務局長研修会」』 一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会 主催、平成 26 年 2 月 9 日
- 43) 木原雅子、『境港市立第三中学校教職員研修会』 境港市立第三中学校 主催、平成 26 年 2 月 17 日
- 44) 木原雅子、『境港市立第一中学校教職員研修会』 境港市立第一中学校 主催、平成 26 年 2 月 18 日
- 45) 木原雅子、『第 5 回 健康教育部研究会』 兵庫県豊岡市教育研究協議会 主催、平成 26 年 3 月 8 日

平成 26 年度（2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月末まで）

- 1) 木原雅子 『第 51 回 長崎県校長会研究大会（諫早大会）』 長崎県校長会 主催、長崎県諫早市、平成 26 年 5 月 15 日
- 2) 木原雅子 『平成 26 年度 純心中学・純心女子高等学校 職員研修会』 純心中学・純心女子高等学校 主催、長崎市、平成 26 年 5 月 17 日
- 3) 木原雅子 『平成 26 年度 大阪高等学校保健体育研究会（前期保健研修会）』 大阪高等学校保健体育研究会 主催、大阪市、平成 26 年 6 月 18 日
- 4) 木原雅子 『平成 26 年度 生徒指導指導者養成研修』 独立行政法人教員研修センター（文部科学省） 主催、茨城県つくば市、平成 26 年 7 月 8 日
- 5) 木原雅子 『児童養護施設 別府平和園 教員研修会』 大分性教育セミナー 主催、大分県別府市、平成 26 年 7 月 12 日（午前）
- 6) 木原雅子 『第 2 回 大分性教育セミナー』 大分性教育セミナー 主催、大分市、平成 26 年 7 月 12 日（午後）
- 7) 木原雅子 『平成 26 年度 全国地方自治体保健所等の青少年エイズ対策推進プログラム』 公益財団法人エイズ予防財団 主催、京都市、平成 26 年 7 月 16～17 日
- 8) 木原雅子 『関西大学中部高等部教育後援会 教育講演』 関西大学中部高等部教育後援会（厚

- 生福祉委員会) 主催、大阪府高槻市、平成 26 年 7 月 23 日
- 9) 木原雅子 『平成 26 年度 愛知県教育委員会「学校保健講座」』 愛知県教育委員会 主催、愛知県名古屋、平成 26 年 7 月 25 日
 - 10) 木原雅子 『平成 26 年度「性に関する指導者研修会」』 高知県教育委員会 主催、高知県四万十市、平成 26 年 7 月 29 日、高知市、平成 26 年 7 月 30 日
 - 11) 木原雅子 『平成 26 年度 山口県公立高等学校 PTA 連合会研修討議会』 山口県公立高等学校 PTA 連合会 主催、山口市、平成 26 年 8 月 1 日
 - 12) 木原雅子 『平成 26 年度 丹波市小中学校養護教諭部会教科等担当者研修』 丹波市教育委員会／丹波市小中学校養護教諭部会 主催、兵庫県丹波市、平成 26 年 8 月 5 日
 - 13) 木原雅子 『平成 26 年度「京都市(中・総)保健教育研修講座」』 京都市教育委員会／京都市立中学校教育研究会保健部会 主催、京都市、平成 26 年 8 月 6 日
 - 14) 木原雅子 『国際ソロプチミスト小松「認証 30 周年記念講演」』 国際ソロプチミスト 主催、石川県小松市、平成 26 年 8 月 8 日
 - 15) 木原雅子 『平成 26 年度「WYSH 教育」全国研修会 指導者養成コース』 高等学校向け(基礎編・個別指導) 一般財団法人 日本こども財団 主催、平成 26 年 8 月 11 日
 - 16) 木原雅子 『平成 26 年度「WYSH 教育」全国研修会 指導者養成コース』 高等学校向け(応用編) 一般財団法人 日本こども財団 主催、平成 26 年 8 月 12 日
 - 17) 木原雅子 『平成 26 年度「WYSH 教育」全国研修会 指導者養成コース』 中学校向け(基礎編・個別指導) 一般財団法人 日本こども財団 主催、平成 26 年 8 月 18 日
 - 18) 木原雅子 『平成 26 年度「WYSH 教育」全国研修会 指導者養成コース』 中学校向け(応用編) 一般財団法人 日本こども財団 主催、平成 26 年 8 月 19 日
 - 19) 木原雅子 『平成 26 年度「WYSH 教育」全国研修会 指導者養成コース』 小学校向け(基礎編) 一般財団法人 日本こども財団 主催、平成 26 年 8 月 21 日
 - 20) 木原雅子 『平成 26 年度「WYSH 教育」全国研修会 指導者養成コース』 小学校向け(応用編) 一般財団法人 日本こども財団 主催、平成 26 年 8 月 22 日
 - 21) 木原雅子 『平成 26 年度 滋賀県更生保護女性連盟第二ブロック研究協議会』 草津市更生保護女性会 主催、滋賀県草津市、平成 26 年 9 月 3 日
 - 22) 木原雅子 『平成 26 年度 青森県高等学校 PTA 連合会「西北五地区協議会研修会」』 青森県高等学校 PTA 連合会 主催、青森県五所川原市、平成 26 年 9 月 11 日
 - 23) 木原雅子 『平成 26 年度 健康教育指導者養成研修「健康コース」』 独立行政法人教員研修センター(文部科学省) 主催、茨城県つくば市、平成 26 年 9 月 19 日
 - 24) 木原雅子 『京都市小学校 PTA 下京・東山支部「はぐくみ委員会」研修会』 京都市小学校 PTA 下京・東山支部「はぐくみ委員会」主催、京都市、平成 26 年 9 月 19 日
 - 25) 木原雅子 『境港市立第一中学校・第三中学校 フォーカスグループインタビュー』 鳥取県境港市、平成 26 年 9 月 24～26 日
 - 26) 木原雅子 『長野県立池田工業高等学校 フォーカスグループインタビュー』 長野県北安曇郡、平成 26 年 9 月 30 日～10 月 2 日
 - 27) 木原雅子 『長野県立池田工業高等学校 WYSH 教育モデル授業』 長野県北安曇郡、平成 26 年 10 月 29 日～31 日
 - 28) 木原雅子 『平成 26 年度 山形県置賜地区高等学校 PTA 研修会』 山形県置賜地区高等学校 PTA 連合会 主催、山形県米沢市、平成 26 年 11 月 8 日
 - 29) 木原雅子 『平成 26 年度 兵庫県高等学校定時制通信制教育研究協議会』 兵庫県定時制通信制教育研究協議会 主催、兵庫県神戸市、平成 26 年 11 月 10 日
 - 30) 木原雅子 『平成 26 年度 養護教諭研修』 高槻市教育センター 主催、大阪府高槻市、平成 26 年 11 月 13 日

- 31) 木原雅子 『平成 26 年度「性に関する指導についての研修会」』 大分県教育庁体育保健課 主催、大分県大分市、平成 26 年 11 月 21 日
- 32) 木原雅子 『平成 26 年度「性に関する教育研修会」』 新潟市教育委員会 主催、新潟市、平成 26 年 11 月 28 日
- 33) 木原雅子 『鳥取県境港市立第一中学校 WYSH 教育モデル授業』 鳥取県境港市、平成 26 年 12 月 5 日
- 34) 木原雅子 『平成 26 年度 研修講座「副校長・教頭・事務長講座」』 京都府総合教育センター 主催、京都市、平成 26 年 12 月 8 日
- 35) 木原雅子 『平成 26 年度「教職員研修・保護者向け教育講演会」』 宮崎県日向市立富島中学校 主催、宮崎県日向市、平成 26 年 12 月 17 日
- 36) 木原雅子 『宮崎県日向市立富島中学校「生徒・教職員何でも相談室」』 宮崎県日向市、平成 26 年 12 月 18 日
- 37) 木原雅子 『宮崎県日向市立富島中学校 WYSH 教育モデル授業』 宮崎県日向市、平成 27 年 1 月 13 日
- 38) 木原雅子 『平成 26 年度 和歌山県 PTA 指導者研修会（第 1 分科会：人権学習）』 湯浅町立湯浅中学校 PTA 主催、和歌山県白浜市、平成 27 年 1 月 17 日
- 39) 木原雅子 『平成 26 年度「青少年エイズ対策講演会」』 尼崎市保健所 主催、兵庫県尼崎市、平成 27 年 1 月 22 日
- 40) 木原雅子 『平成 26 年度 厚生科研費研究報告発表会』 厚生労働省 主催、東京都、平成 27 年 2 月 14 日
- 41) 木原雅子 『平成 26 年度 全国高等学校 PTA 連合会総会（会長・事務局長会議）』（社団法人）全国高等学校 PTA 連合会 主催、東京都、平成 27 年 2 月 15 日
- 42) 木原雅子 『平成 26 年度 こども財団広島支部 WYSH 教育研修会』 こども財団広島支部 主催、広島市、平成 27 年 2 月 21 日
- 43) 木原雅子 『宮崎県日向市立富島中学校 WYSH 教育モデル授業』 宮崎県日向市、平成 27 年 3 月 10～11 日

2012 年度研究（平成 24 年度）

（研究のうち一部のみ抜粋）

1. サイバー戦略を用いた予防介入研究

1-1. 性的多様性についての一般集団の意識に関する研究

インターネット調査

木原雅子（京都大学大学院医学研究科）
S. Pilar Suguimoto（京都大学大学院医学研究科）
Sakol Sopitarchasak（京都大学大学院医学研究科）
木原彩（京都大学大学院医学研究科）
Bhekumusa W. Lukhele（京都大学大学院医学研究科）
Christina El-Saaidi（京都大学大学院医学研究科）
本多由起子（京都大学大学院医学研究科）
Patou Masika Musumari（京都大学大学院医学研究科）
Teeranee Techasrivichien（京都大学大学院医学研究科）
鬼塚哲郎（京都産業大学文化学部）

【研究の背景・目的】

一時期抑制されたアジアのHIV流行は、性感染（同/異性間）で現在急速に再興しつつある（Commission on AIDS in Asia 2008）。一方我国の若者の性行動は分極化し、活発層へのHIV流行の今後の浸透が強く懸念される。複合予防combination prevention（Lancet 372:669, 2008）は、認知行動理論とランダム化比較試験に基づく従来の予防モデルの限界への反省の上に提唱された、多目的、多角的、構造的な実践的予防モデルであり、その確立は今後の我国の若者の予防の鍵を握ると考えられる。本研究班では、複合予防戦略に基づく、多様な若者に対する包括的HIV予防手法を開発・評価し、学校を場とする予防戦略（スクール戦略）と、急

速に拡大するITネットワークを利用する予防戦略（サイバー戦略）を車の両輪として、多様な若者を対象とした全国規模での持続性ある予防モデルを確立することを目的とする。

初年度は、現在のわが国のHIV流行の要となるMSMユース層（特に中学生・高校生）への予防支援対策開発の形成調査（formative research）の一環として、性的多様性（セクシャリティー、セクシャルマイノリティー）に対する一般住民の知識と意識の実態を把握し、今後の予防啓発手法開発の基礎資料を収集するための調査を実施した。

【研究デザイン】

【方法】

- **対象者**：某社に登録しているwebモニター1,119,539人のうち、包含基準（中学生を除く15-59歳の男女）を満たす10,520人を対象に、性的多様性に対する知識と意識を問うネット調査を実施した。
- **質問項目**：質問は合計30項目で、①ネット上の知人との実際の交際の有無及びそのときの不安の有無等、②各種性行為

に対する受容度（男子中学生がセックスをすること、女子中学生がセックスをすること、男子高校生がセックスをすること、既婚男性の婚外交渉、既婚女性の婚外交渉、恋人がいる男性が恋人以外とセックスすること、恋人がいる女性が恋人以外とセックスすること、男性同士のセックス、女性同士のセックス、お金を払

ってセックスすること、お金をもらってセックスすること)、③友人から同性愛だと告白されたらどうするか、④家族から同性愛だと告白されたらどうするか、⑤同性愛についていつ知ったか、⑥一番はじめに知ったのはどのようにして、⑦同性愛は本人の意思で変えられるか、⑧日本には同性愛の人がどれくらいいると思うか、⑨学校で生徒からのセクシャルマイノリティーへのからかいの頻度、⑩学校の先生からのセクシャルマイノリティーへのからかいの頻度、⑪周囲の人がセクシャルマイノリティーをからかっている頻度、⑫本人がセクシャルマイノリティーをからかった頻度、⑬知り合いに同性愛の人はいるか、⑭同性愛の差別偏見を減らす教育の必要性は、⑮同性愛の人に対する支援対策の必要性は、⑯性的指向、⑰同性愛に対する考え（自由記載）で構成されている。

の割合がやや多かった。次に子どもに有無については、男性では子どもなし65.4%、子どもあり39.5%、女性では子どもなし56.3%、子どもあり43.7%であった。個人年収は、男女とも200万円未満が最も多かった。職業は、男性では会社員が44.4%で最も多く、次が学生で25.8%であった。一方、女性では専業主婦が28.6%で最も多く、次が学生で23.1%、会社員17.9%、パート16.9%の順であった。

【結果】

15歳～59歳男女合計2,150人が調査に参加し、うち不完全回答者90人を除外し、2060人を解析対象とした。

■参加者の属性：男性1030人、女性1030人合計2060人。参加者は全国に広がっているが、地域別に見ると、男性では関東地方(35.0%)、中部地方(20.4%)、近畿地方(18.6%)が上位3地域で、女性では、関東地方(37.0%)、近畿地方(20.0%)、中部地方(15.8%)の順であった。婚姻状況は、男性では、未婚者60.5%、既婚者39.5%、女性では、未婚者56.3%、既婚者43.7%で、男性の方が未婚者

■ネット利用関係の質問

問1.「ネットで知り合った人と実際に会ったことがありますか」を尋ねた。全体では、会ったことがあると答えた人は、男性では32.8%、女性では30.7%で30%前後の人たちがネットで知りあった人と、実際に会った経験を持っていた。それをさらに年代別に見ると、男性では、30代が最も高く43.2%で、次いで20代38.8%、40代33.5%とかなりの高値を示した。一方女性では、男性とは異なり、10代が38.8%と最も高く、20代37.4%、30代36.9%とほとんど差はないが若いほど高値であった。